㈱　建物勘定（損益内）の当期増加額のうち主なものは、新治療研究棟ガントリー機械室（241,521,428円）及び電話交換機設備（153,175,814円）であります。
機械装置勘定（損益内）の当期増加額のうち主なものは、新治療研究棟ガントリー機械室用天井クレーン（77,668,500円）及びビーム位置モニタの改良と画像出力装置（37,800,000円）であります。
工具器具備品勘定（損益内）の当期増加額のうち主なものは、高精度表面電離型質量分析計システム（106,050,000円）、炭素線スキャニング呼吸同期治療用Ｘ線撮影システム（95,550,000円）及び自動細胞分離解析装置（92,599,500円）であります。
工具器具備品勘定（損益内）の当期減少額のうち主なものは、事務用ワークステーションシステム（103,632,000円）、重粒子治療スケジュール管理システム（52,815,000円）であります。
建物勘定（損益外）の当期増加額のうち主なものは、環境動態研究施設整備（1,002,076,433円）であります。
医療用機械備品勘定（損益外）の当期増加額のうち主なものは、研究臨床用ＰＥＴ／ＣＴ（273,000,000円）及びＸ線ＣＴ装置（199,290,000円）であります。
工具器具備品勘定（損益外）の当期増加額のうち主なものは、重イオンシンクロトロン用主電磁石電源（518,144,370円）であります。
建設仮勘定の当期増加額のうち主なものは、超伝導回転ガントリー及び治療室の詳細設計並びに製造（300,000,000円）であります。
建設仮勘定の当期減少額のうち主なものは、環境動態研究施設整備工事（398,160,000円）であります。

2　たな卸資産の明細

（単位：円）

種類	期首残高	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘要
		当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
未成受託研究支出金	36,276,159	92,740,512	—	117,235,356	—	11,781,315	
商品	985,491	322,664	—	603,027	—	705,128	
研究用貯蔵品	15,115,655	42,253,902	—	40,579,863	—	16,789,694	
医療用貯蔵品	17,496,602	179,673,406	—	178,330,386	1,044,519	17,795,103	㈱
その他貯蔵品	34,990	24,660	—	27,812	—	31,838	
合計	69,908,897	315,015,144	—	336,776,444	1,044,519	47,103,078	

㈱　当期減少額のその他欄へ計上しております金額は、たな卸廃棄損であります。

3　貸付金等に対する貸倒引当金の明細

（単位：円）

区分	貸付金等の残高			貸倒引当金の残高			摘要
	期首残高	当期増減額	期末残高	期首残高	当期増減額	期末残高	
売掛金							
一般債権	67,278,474	30,980,144	98,258,618	107,646	88,871	196,517	（注１）、（注２）
貸倒懸念債権	2,140,660	△ 9,000	2,131,660	1,070,330	△ 4,500	1,065,830	（注３）
その他の流動資産							
一般債権	920,275	△ 158,174	762,101	1,472	52	1,524	（注１）、（注２）
破産債権等							
破産更生債権等	1,352,500	—	1,352,500	1,352,500	—	1,352,500	（注４）
合計	71,691,909	30,812,970	102,504,879	2,531,948	84,423	2,616,371	

（注１）　貸付金等の残高については、国又は地方公共団体に対する債権額及び前払費用等の対象額を控除した額としております。
（注２）　貸倒引当金の残高については、過去の貸倒実績等により設定した貸倒実績率を用いて算定しております。
（注３）　債権額から担保等による回収見込額を減額し、その残額について債務者の財政状態及び経営成績を考慮して算定（50％）しております。
（注４）　債権額から担保等による回収見込額を減額し算定しております。

4　資産除去債務の明細

（単位：円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
石綿障害予防規則	38,763,572	137,655	—	38,901,227	第91特定：有
放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律	1,493,213,562	24,444,948	—	1,517,658,510	第91特定：有